

四街道市 認知・イメージ等に関する調査結果

平成28年10月

経営企画部 シティセールス推進課



調査概要

- 調査目的:

四街道市への転入促進に影響を与えると思われる、四街道市や近隣市町の認知やイメージの現況を把握すること

- 調査期間:

平成28年7月1日～7月10日

- 調査手法:

ウェブサイトによるアンケート調査

- 調査対象:

調査パネルに基づいた、調査対象エリアに居住する20歳～49歳、未婚／既婚、男性／女性

- 調査エリア:

千葉県内7市(千葉市、市原市、習志野市、船橋市、佐倉市、八千代市、市川市)

東京都内7区(千代田区、中央区、港区、台東区、江東区、江戸川区、文京区)

- 回答数:

1,440(千葉県、東京都、各720)

サマリー

■ 四街道の認知率

- 四街道市の認知率(助成想起率—市名を見せて知っている人の比率)は、千葉、東京合わせて64.2%。千葉県内では78.6%認知されているが、東京都内では49.7%と乖離している。
- 前回調査(平成24年3月)での認知率推計は66.8%であるため、ほぼ横ばいの推移(※)。
- 認知率のうち、純粹想起率(何の情報提示もなく四街道市を思い出せる人の比率)は、3.8%。千葉県内で5.3%、東京都内で2.2%であり、「訊かれれば知っているが、思い出しにくい」市という位置にある。

■ 四街道市のイメージ

- 「自然が豊かそう」と、四街道市をイメージしている人がもっとも多いが(56.9%)、「住みやすそう」(16.0%)、「子育てによさそう」(14.2%)というイメージは、現状弱い。
- 千葉市、市川市、船橋市については、「都会的」で「住みやすそう」で「活気がありそう」というイメージが強い。

■ 四街道市についての理解

- 四街道市の理解度については、「緑が多く自然に恵まれている」と約50%の人が認識しているが、「子育て支援や教育環境づくりに力を入れている」は5.2%、「知っていることはない」が28.2%と、理解度に課題がある。

※平成24年調査(「インターネットアンケート調査」)では、四街道市を「よく知っている」「ある程度知っている」「あまり知らない」「まったく知らない」と4段階で質問しており、市名そのものの認知を直接的に調べていないため、「まったく知らない」以外を市名認知率として推計した。

サマリー

■ 四街道市との居住、交流経験

- 四街道市に住んだことがあるか、行ったことがある人は、四街道市を知っている人のうち57.7%。千葉県民では、65.2%が同様の経験がある。

■ 四街道市への居住意向

- 四街道市への居住意向は、12.8%（7段階評価、非常に住んでみたい＋住んでみたい＋やや住んでみたい合計値）。船橋市（42.6%）、市川市（39.0%）、千葉市（37.0%）、習志野市（29.6%）の4市が突出している。

■ 四街道市の魅力

- 四街道市の特長説明文提示では「0歳児から中学校3年生までの子どもの医療費無料」が最も魅力的であると映っており、約50%の人がそのように回答している。特に千葉県の25歳～39歳既婚女性の76%が「医療費無料」に魅力を感じている。

■ 居住地選択時の重視点

- 居住地選択時の重視点は、「勤務先までの距離、所要時間」が約65%ともっとも高く、以下「公共交通機関の整備状況」、「支払える家賃やローン」、「居住環境」、「商業施設」、「子育て施策」等の日常生活に関係する実質的な重視点が続く。特に25歳～39歳の千葉県内の既婚女性はこの傾向がさらに強い。

■ 子育てへの関わり意識

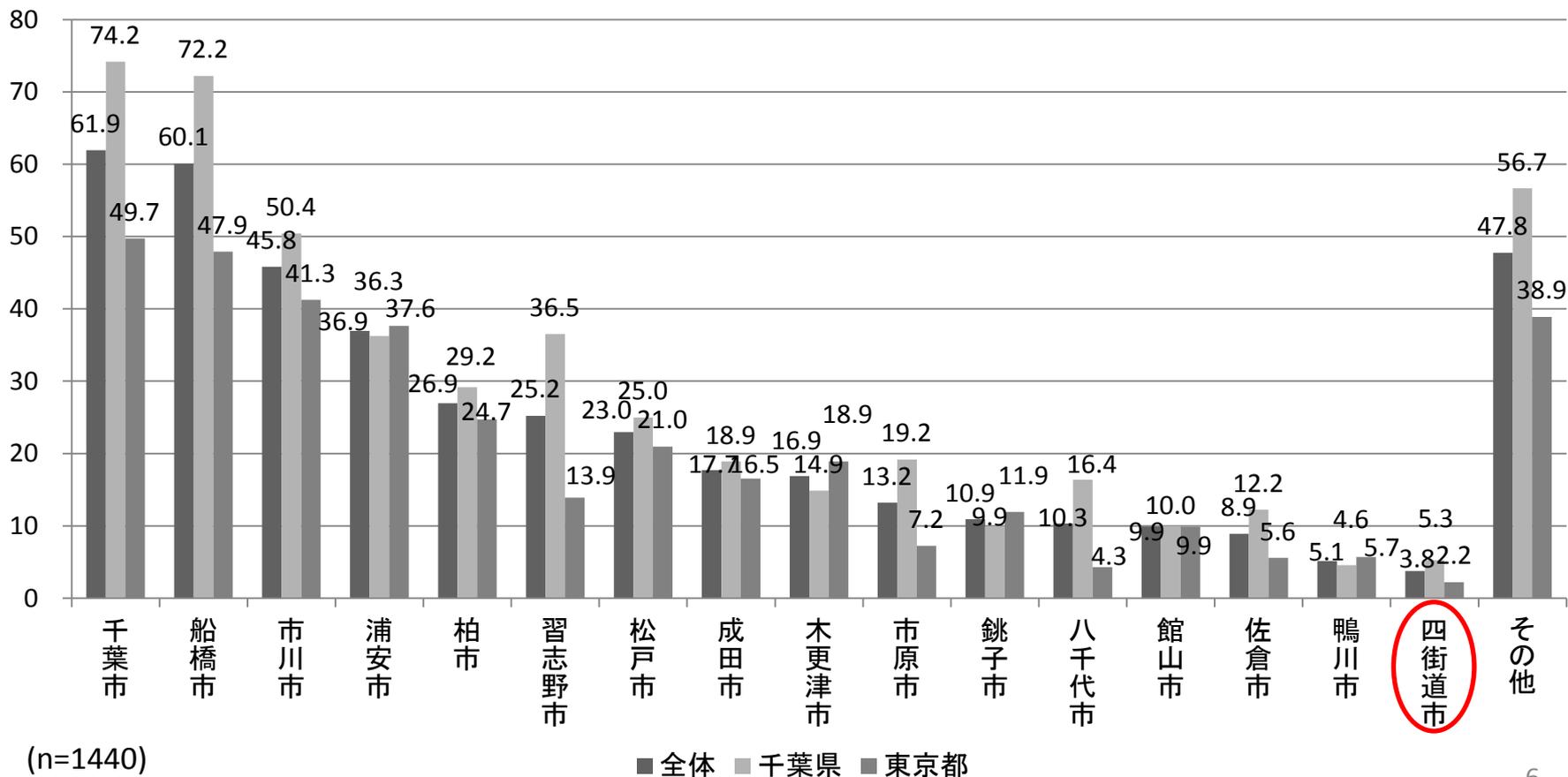
- 「子育ては女性中心であるべき」と考える男性は過半数の53%であり、「そう思わない」と反対する女性は56%。
逆に「子育ては男性が中心であるべき」か、との質問には、女性の86%が「そう思わない」と考えており、「女性中心」であることに抵抗感がありつつも、「男性中心」であることも現実的ではないと考えている。

調査結果詳細

市町名の認知率(純粹想起)

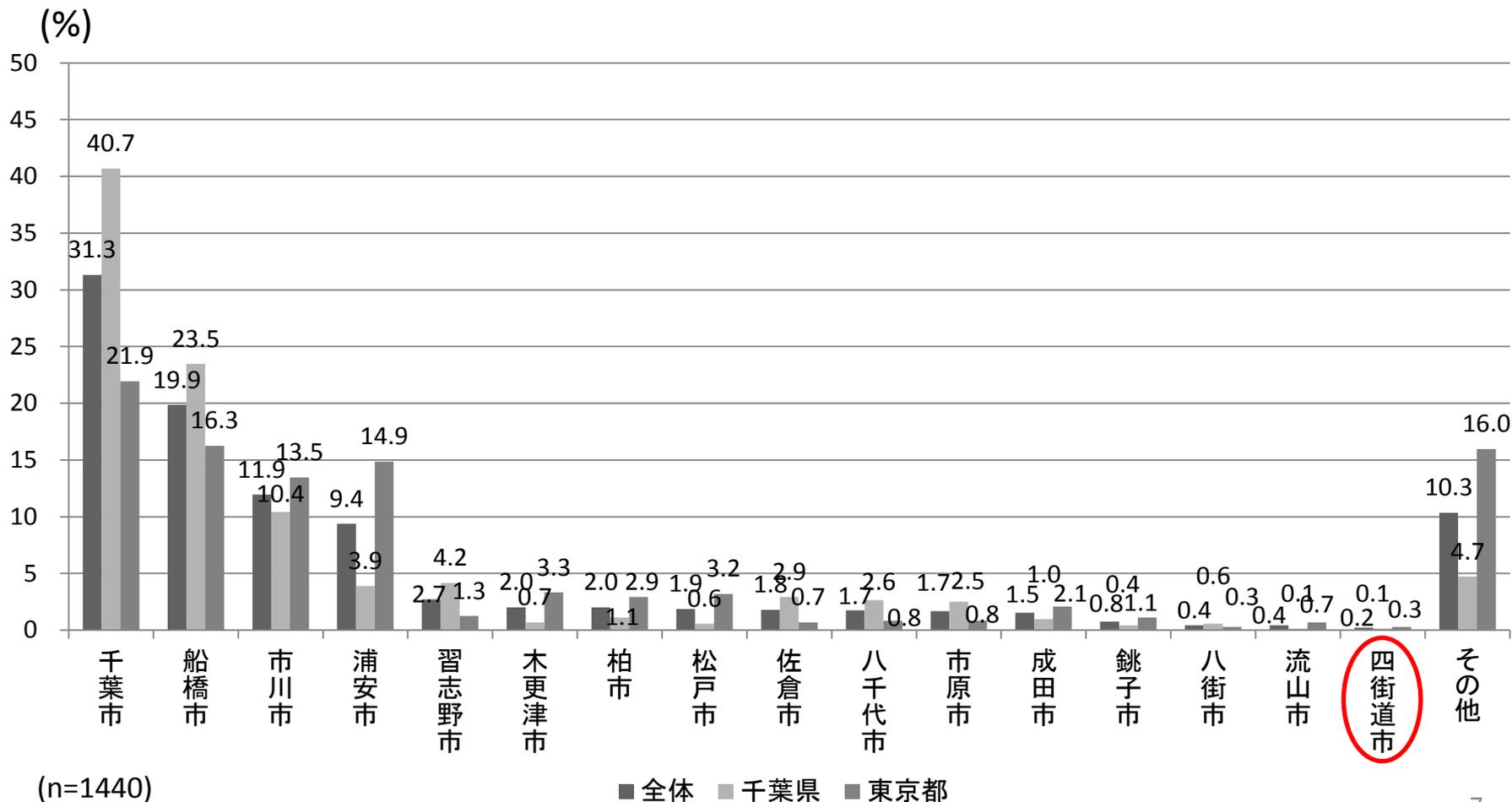
千葉県内の市町名で、情報提示なく四街道市を思い出せる人は、全体の3.8%で19番目。上位から、千葉市(61.9%)、船橋市(60.1%)、市川市(45.8%)、浦安市(36.9%)、柏市(26.9%)の順。千葉県民でも5.3%にすぎず、東京都民では2.2%と想起されにくい。千葉県民においては、千葉市(74.2%)、船橋市(72.2%)が突出している。

(%)



市町名の認知率(第一純粹想起)

千葉県内の市町名で、情報提示なく四街道市を最初に思い出した人は、0.2%(1440人中3人)。上位から千葉市(31.3%)、船橋市(19.9%)、市川市(11.9%)、浦安市(9.4%)、習志野市(2.7%)の順。千葉県民においては上位3市、東京都民においては浦安市を含めた上位4市のみが突出している。

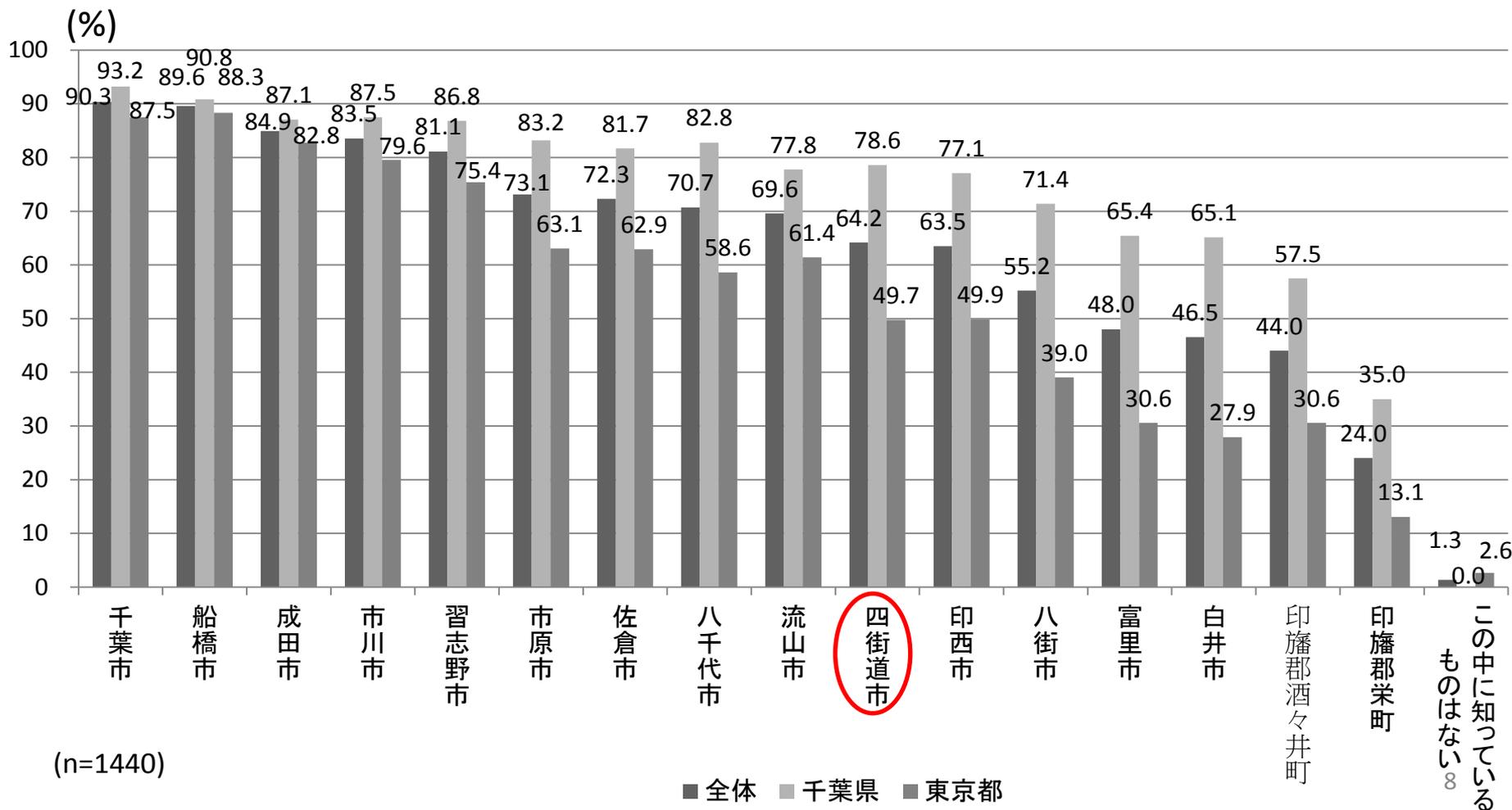


市町名の認知率(助成想起)

四街道市の認知率(市名を提示しての認知率=助成想起率)は、64.2%。

千葉県民は78.6%、東京都民は49.7%と、30%弱の差があり、都民からの認知が低めである。

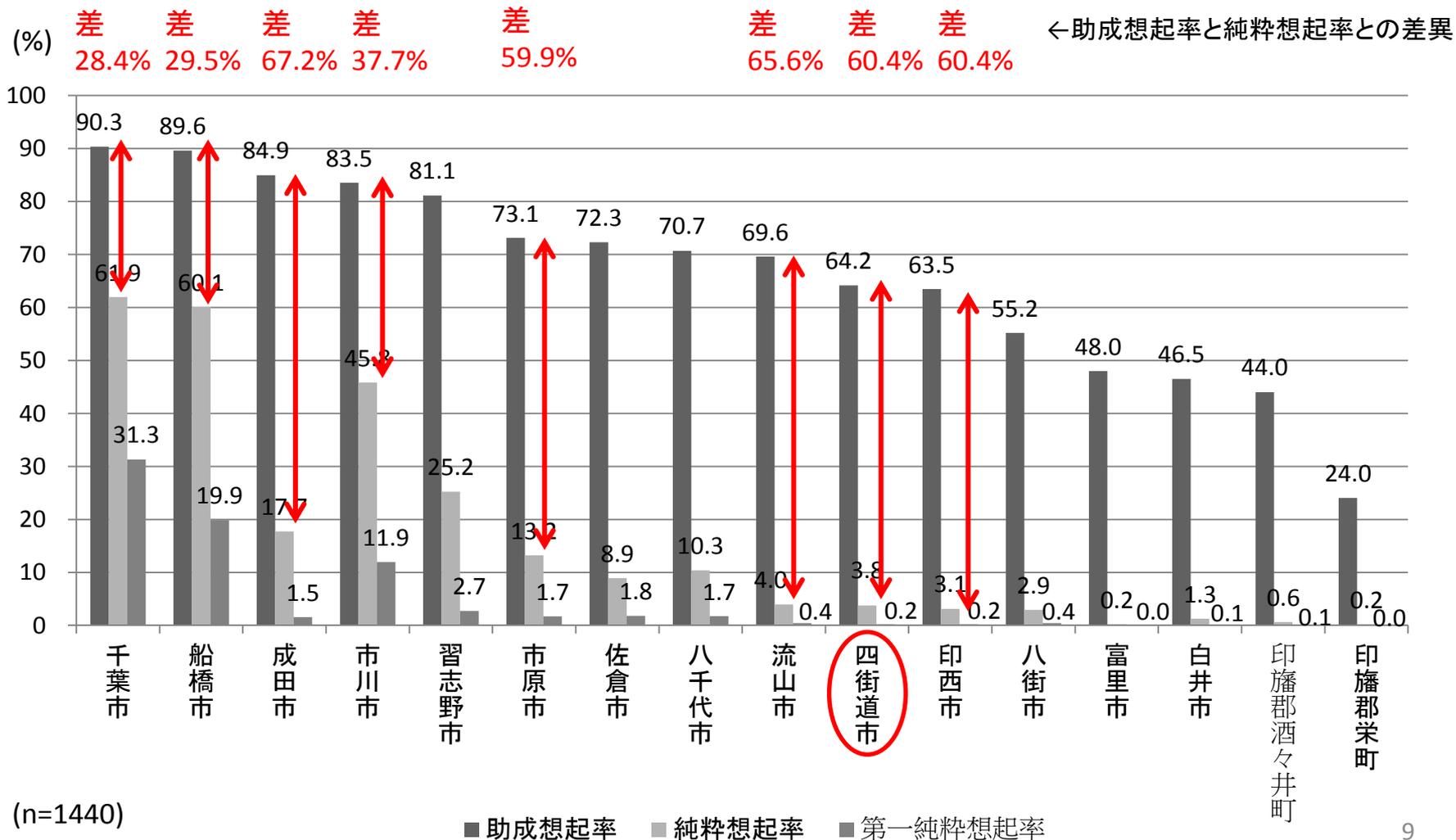
市町名の認知率が高い順では、千葉市(90.3%)、船橋市(89.6%)、成田市(84.9%)、市川市(83.5%)、習志野市(81.1%)、市原市(73.1%)、流山市(69.6%)、四街道市(64.2%)の順。



市町名の認知率(助成想起、純粹想起、第一純粹想起比較)

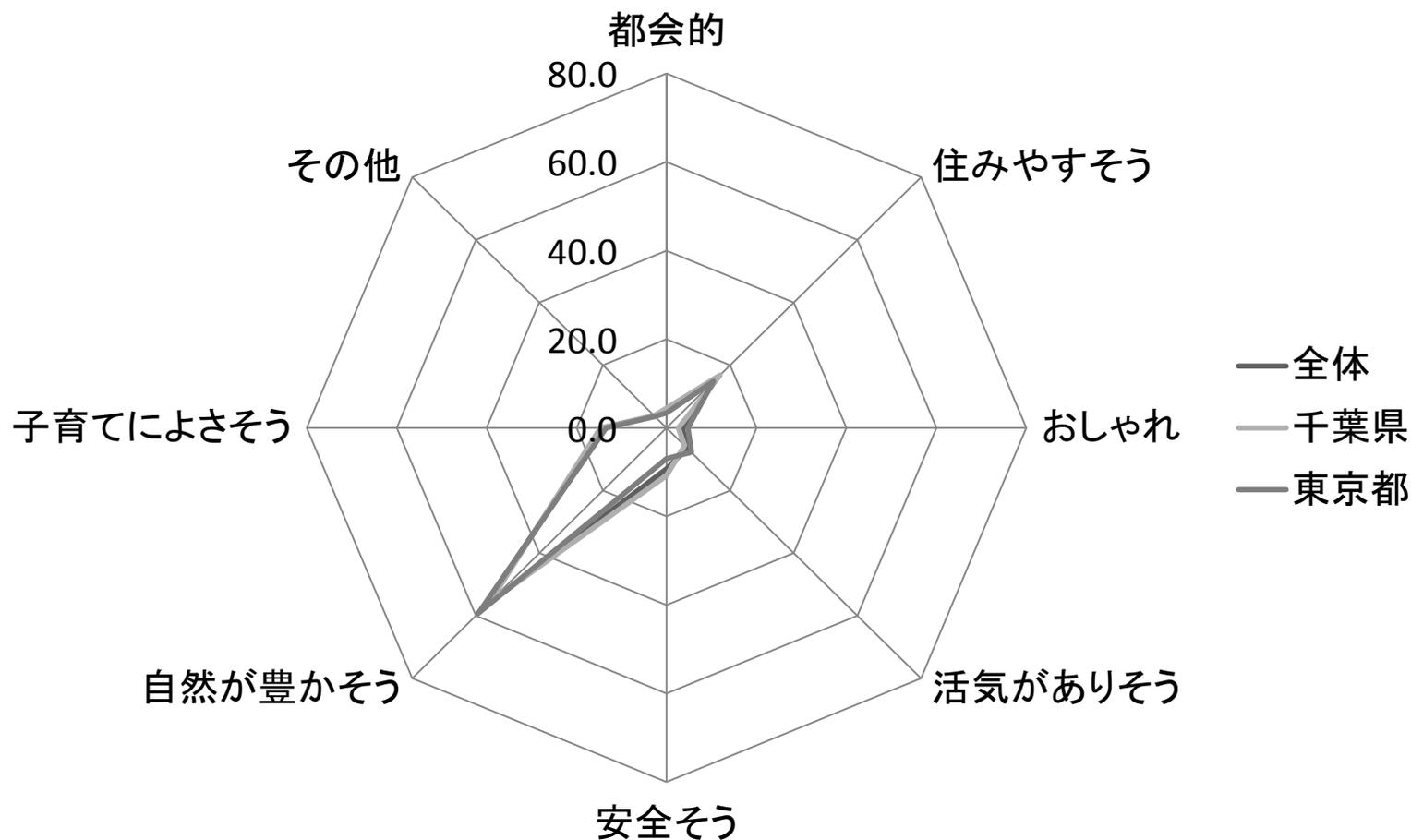
四街道市は、助成想起では64.2%と一定の認知はあるものの、純粹想起では低想起率であり、このギャップが大きい(60.4%)。

つまり「訊かれれば知っているが、思い出しにくい」市という現状である。



市のイメージ(四街道市)

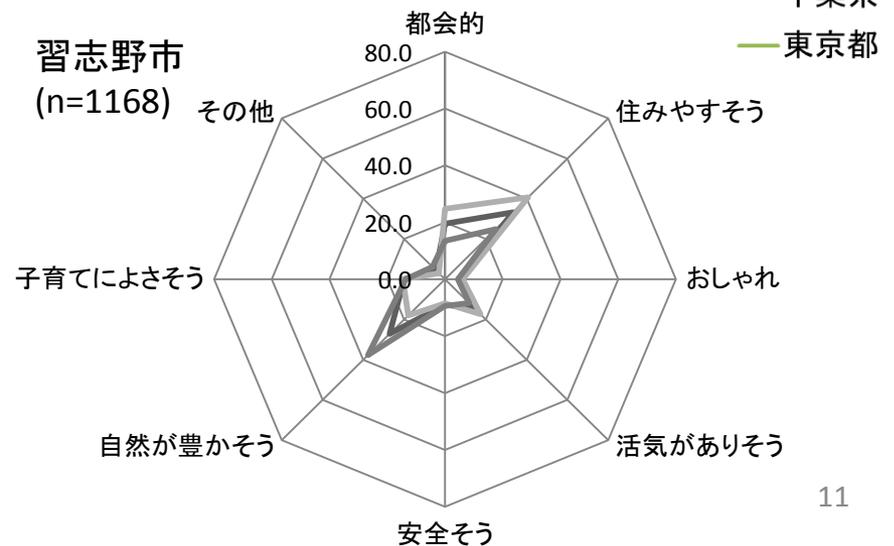
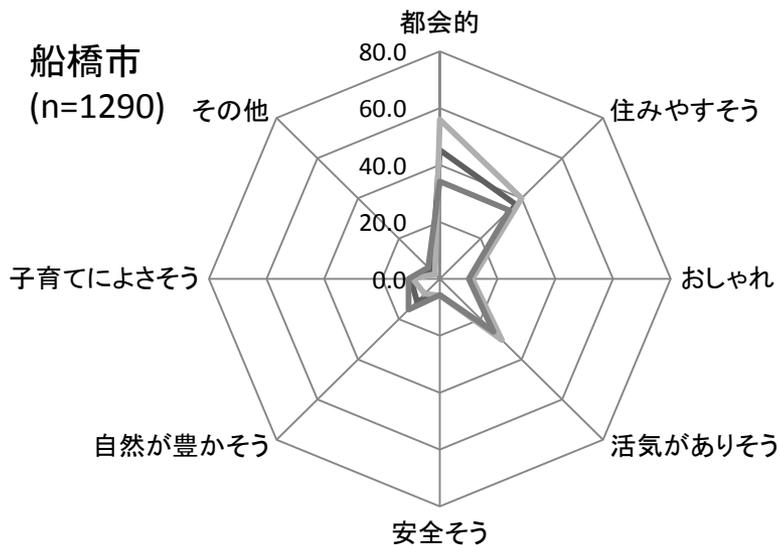
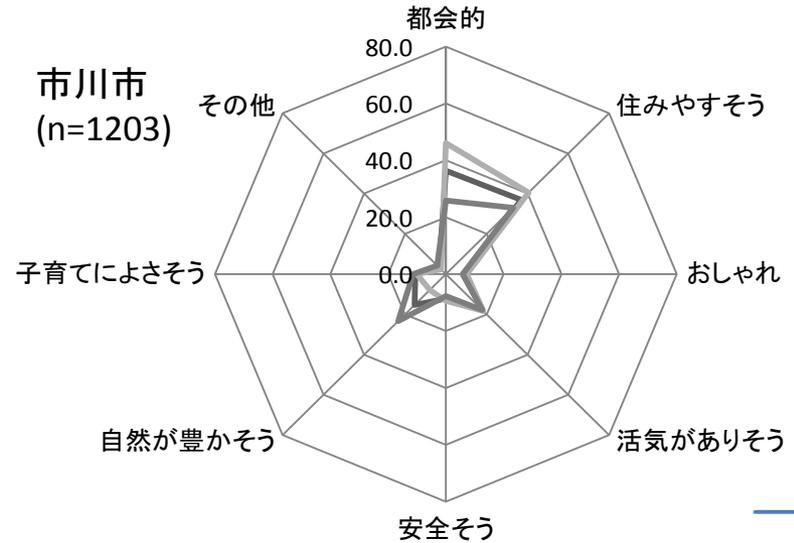
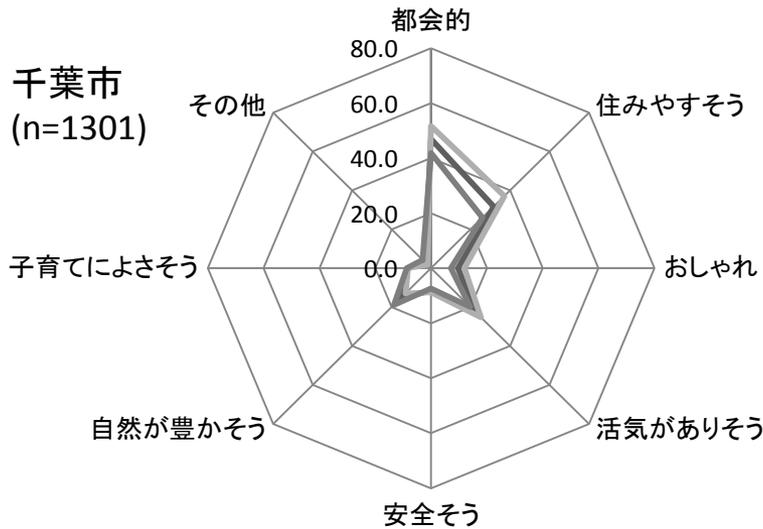
四街道市のイメージは「自然が豊かそう」が56.9%である一方、「子育てによさそう」(14.2%)、「住みやすそう」(16.0%)となっており、「自然」のイメージはあるものの、「子育て」を含めた他のイメージは総じて低い。この傾向は、千葉県民、東京都民とも大きな違いはない。



(n=924)

市のイメージ(千葉県内各市町)

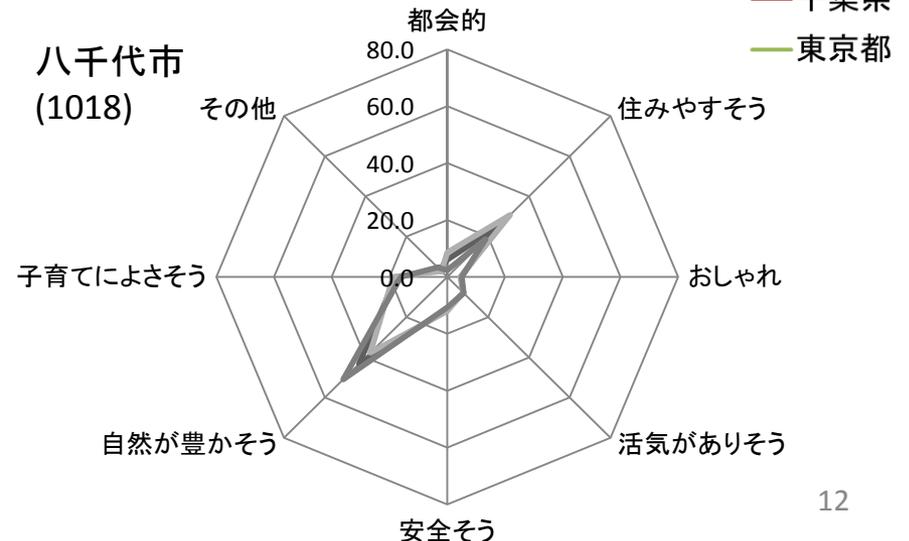
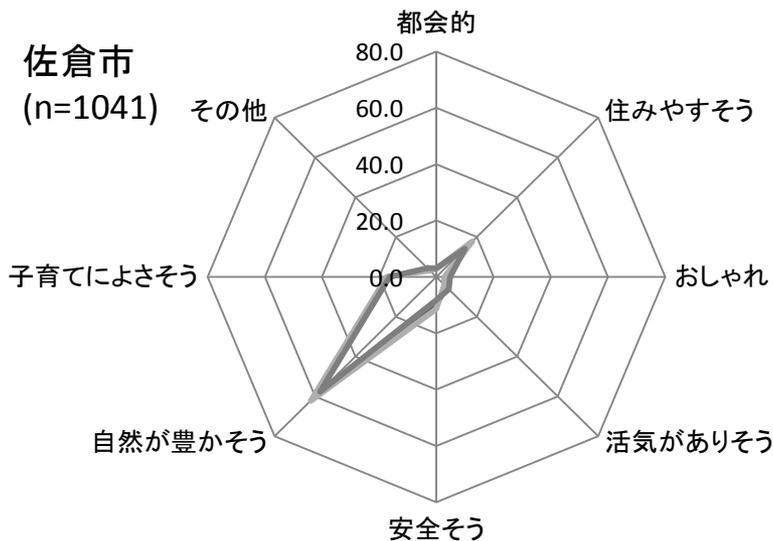
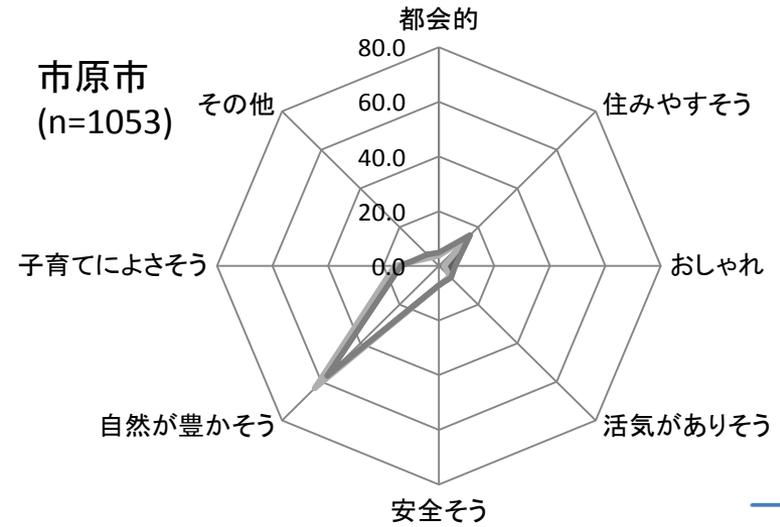
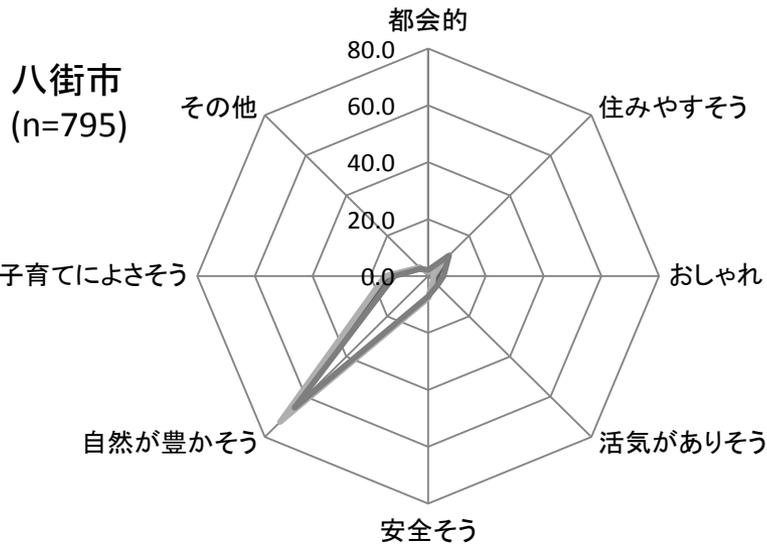
各市のイメージを大別すると、「都会的」「住みやすそう」の2項目が相対的に高いグループ(千葉市、船橋市、市川市等が代表的)と「自然が豊かそう」が相対的に高いグループ(四街道市、市原市、白井市、富里市等が代表的)に二分される。特に千葉県民は、千葉市、船橋市、市川市3市を「都会的」で「住みやすそう」だというイメージを持っている。



— 全体
— 千葉県
— 東京都

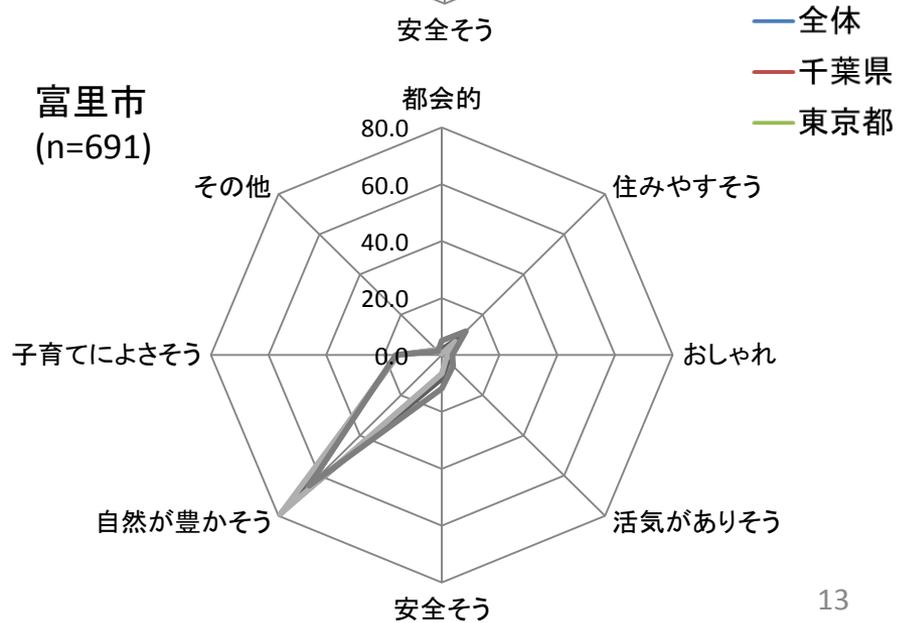
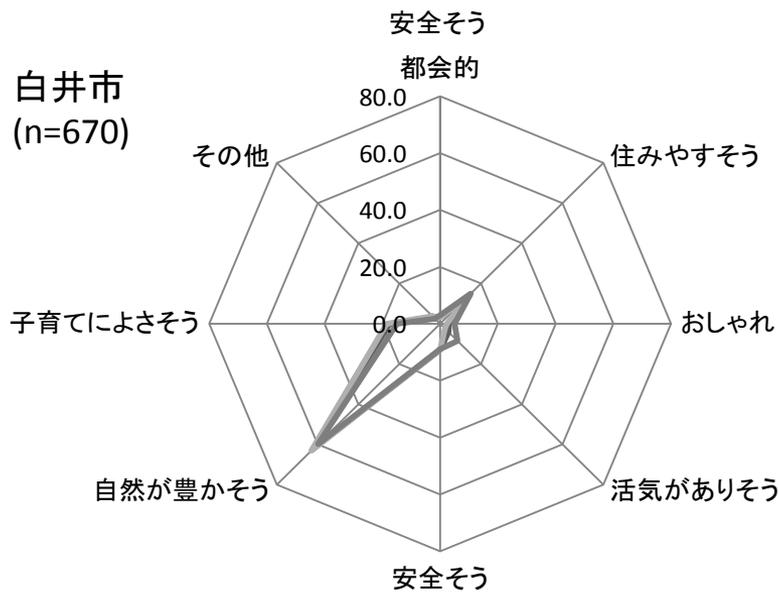
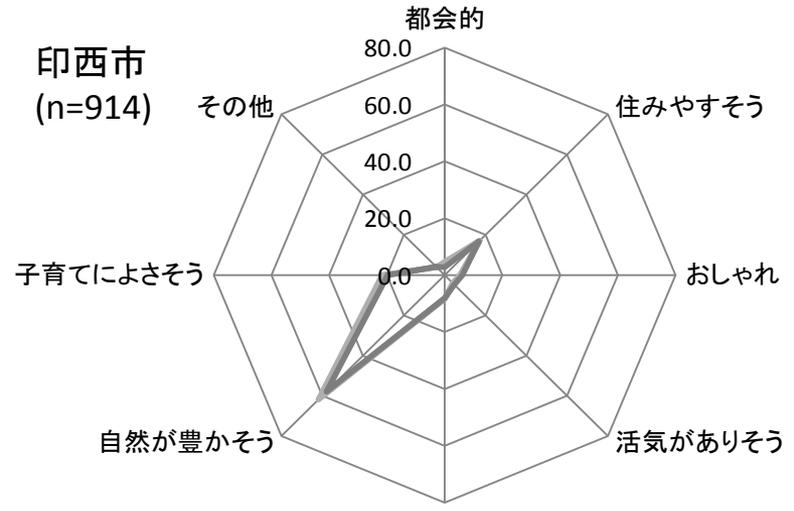
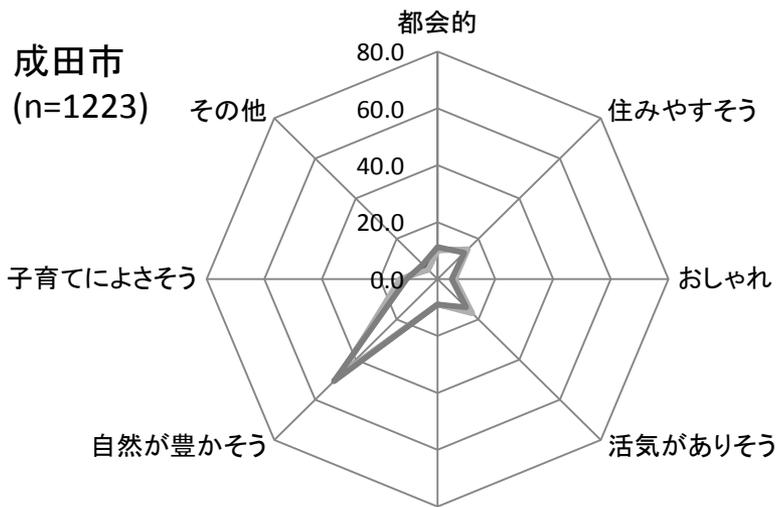
市のイメージ(千葉県内各市町)

一方で、「自然が豊かそう」というイメージを持たれているグループ(四街道市、市原市、白井市、富里市等)は、総じてイメージ構成に大きな差異がなく、「自然」以外の各イメージ項目の値が低く、漠然としたイメージしか持たれていない様子が伺える。

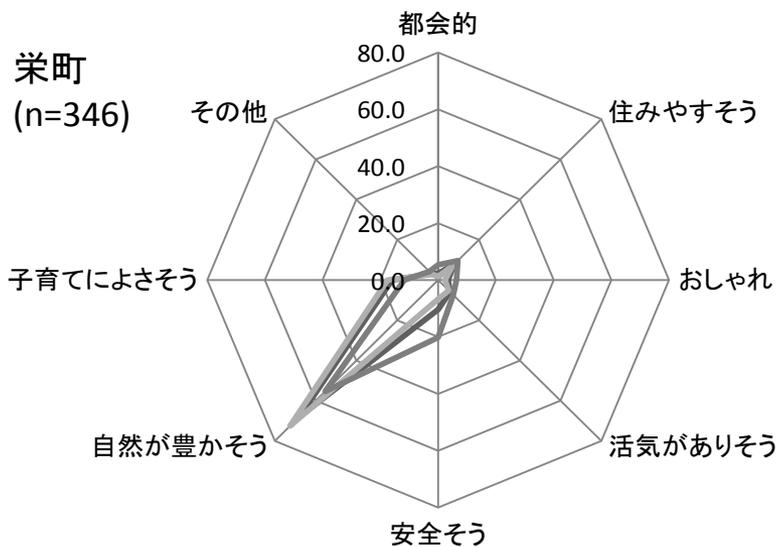
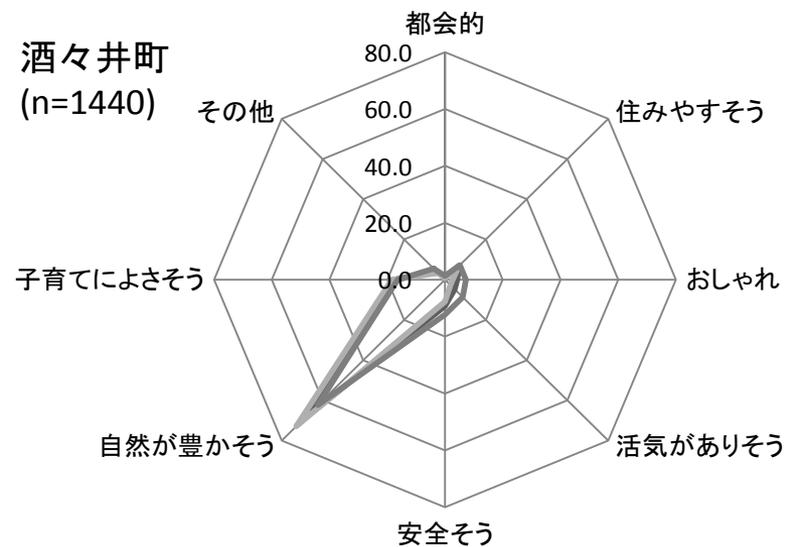
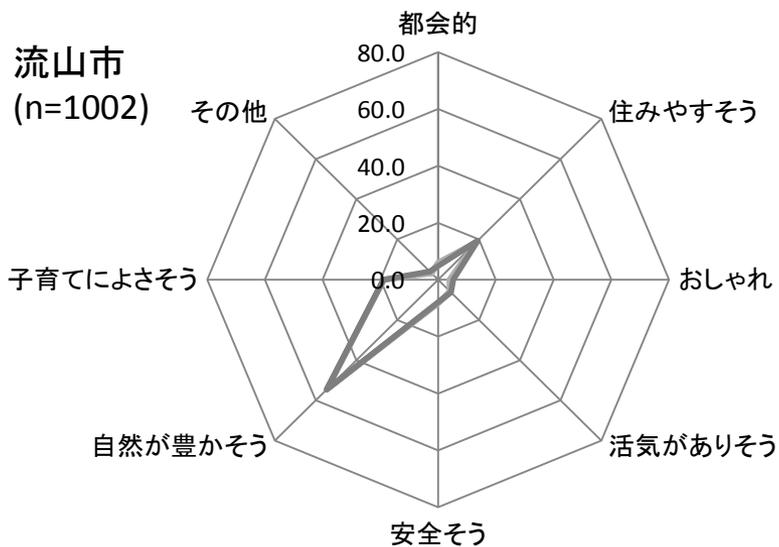


— 全体
— 千葉県
— 東京都

市のイメージ(千葉県内各市町)



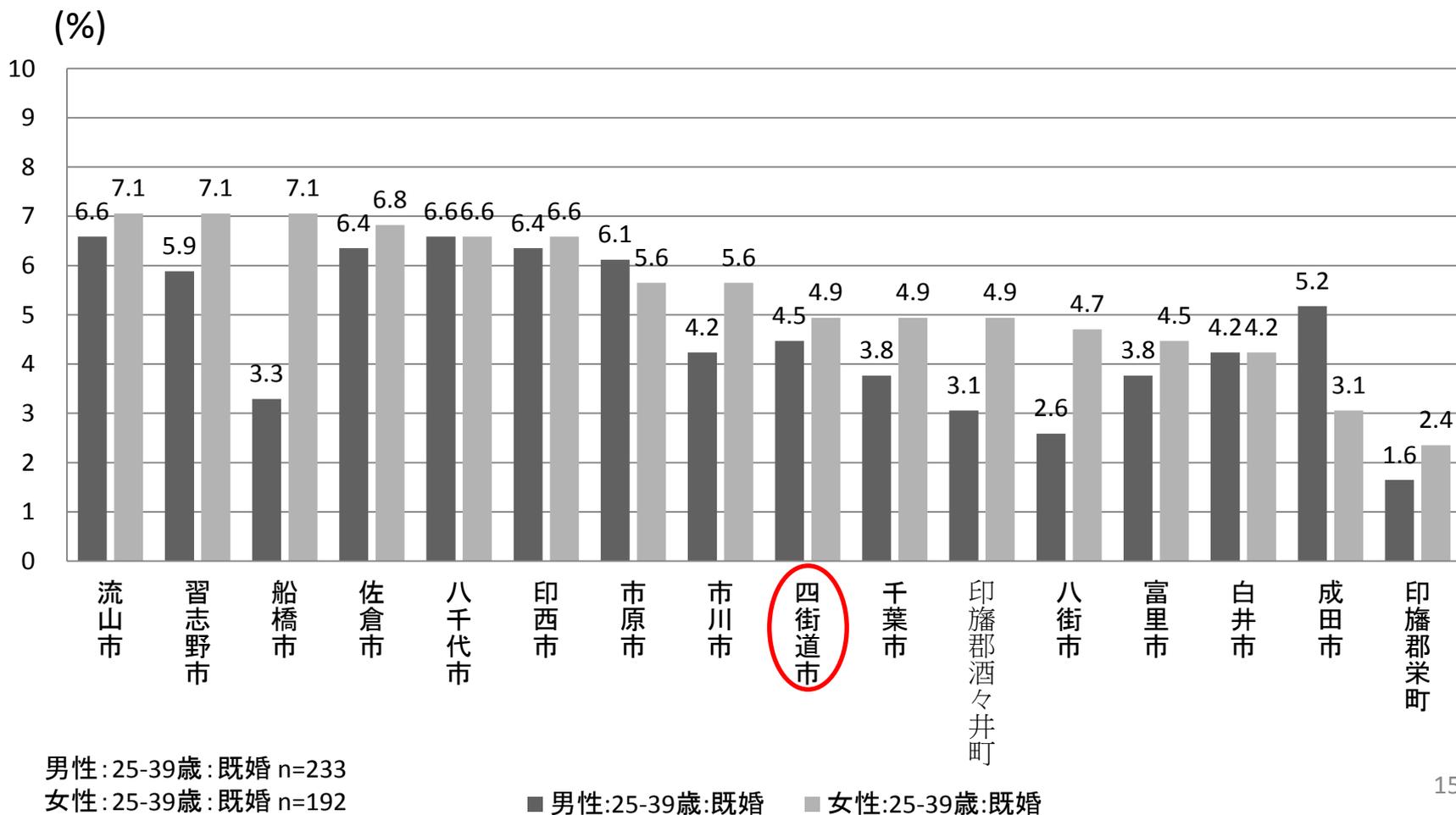
市のイメージ(千葉県内各市町)



- 全体
- 千葉県
- 東京都

「子育てによさそう」な市町イメージの比較

25歳～39歳の女性において「子育てによさそう」と感じられている上位市町は、船橋市、習志野市、流山市(各7.1%)、佐倉市(6.8%)、印西市、八千代市(各6.6%)だが、総じて高くはない。四街道市については、25歳～39歳の女性の4.9%が「子育てによさそう」と感じているにとどまっている。また、「子育て」に関するイメージについては、やはり男性よりも女性の意識が高い。

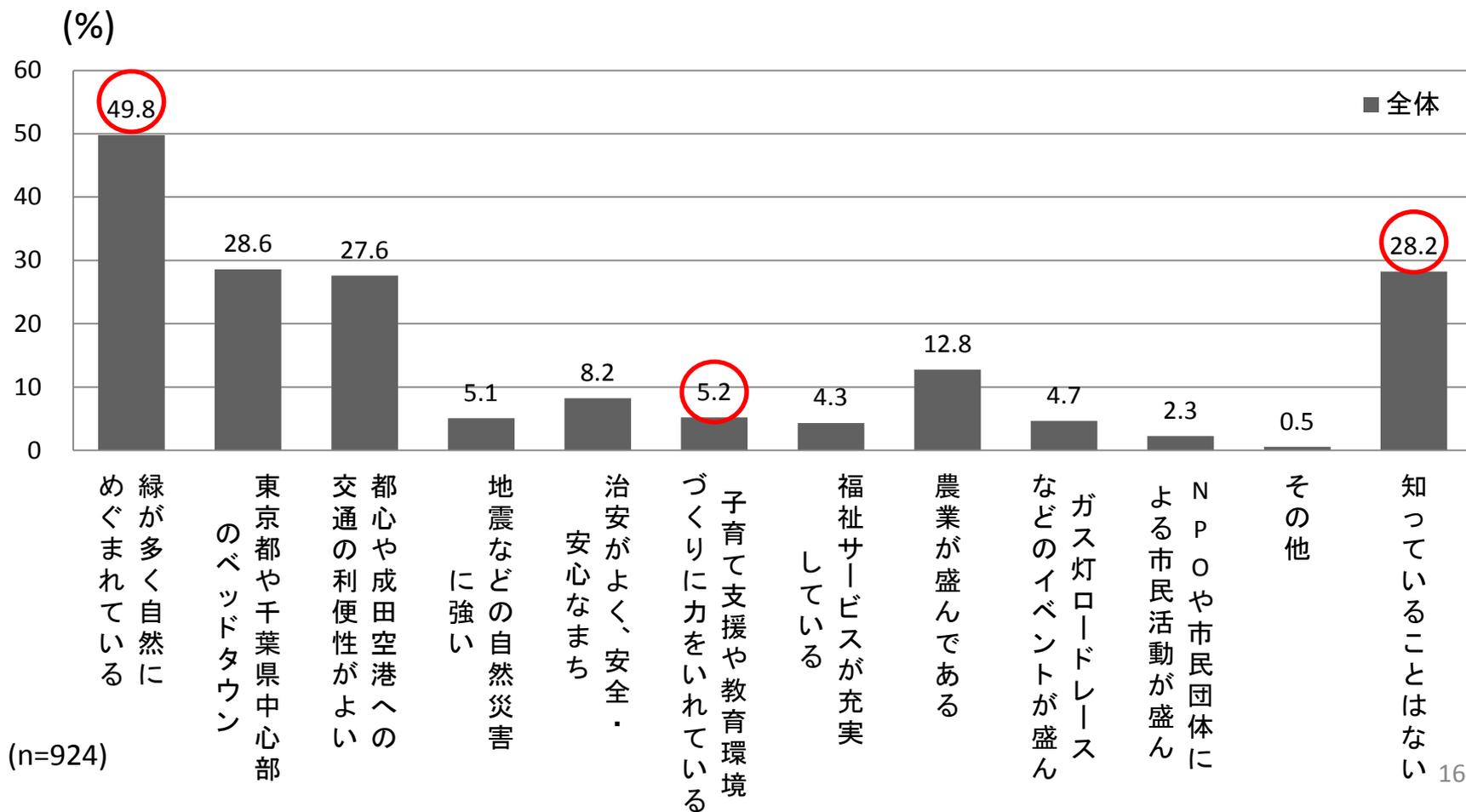


四街道市についての理解度

四街道市について知っていることは、「緑が多く自然に恵まれている」が約50%と最も高い。また、30%弱の人が「交通の利便性」や「ベッドタウン」であることを理解している。

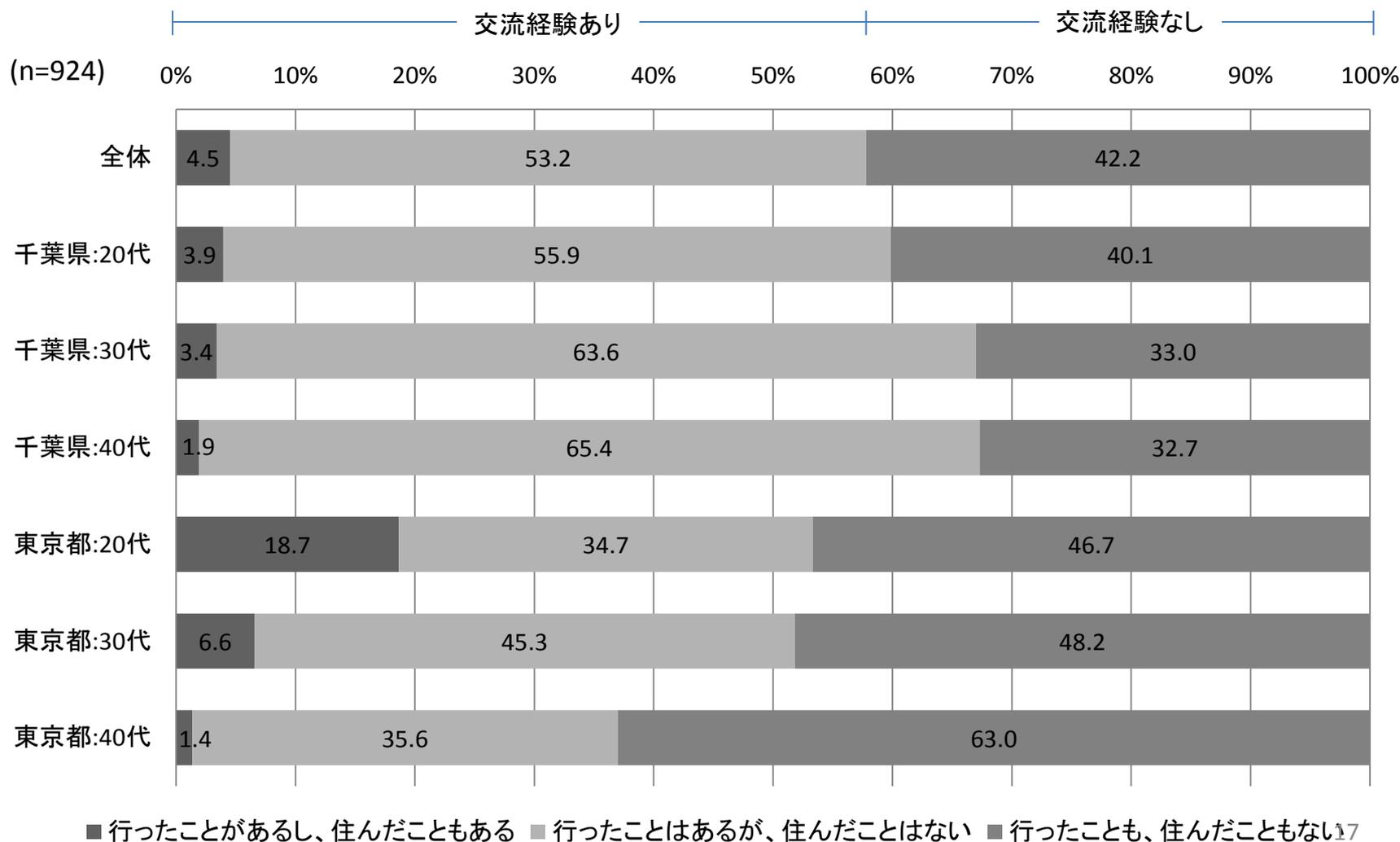
一方、「子育て支援や教育環境づくりに力を入れている」ことについては、全体で5%、県内でも4%程度の人が認識しているに過ぎない。

約30%の人たちが、四街道市について「知っていることはない」としていることも課題である。



四街道市との交流経験(地域別、年代別)

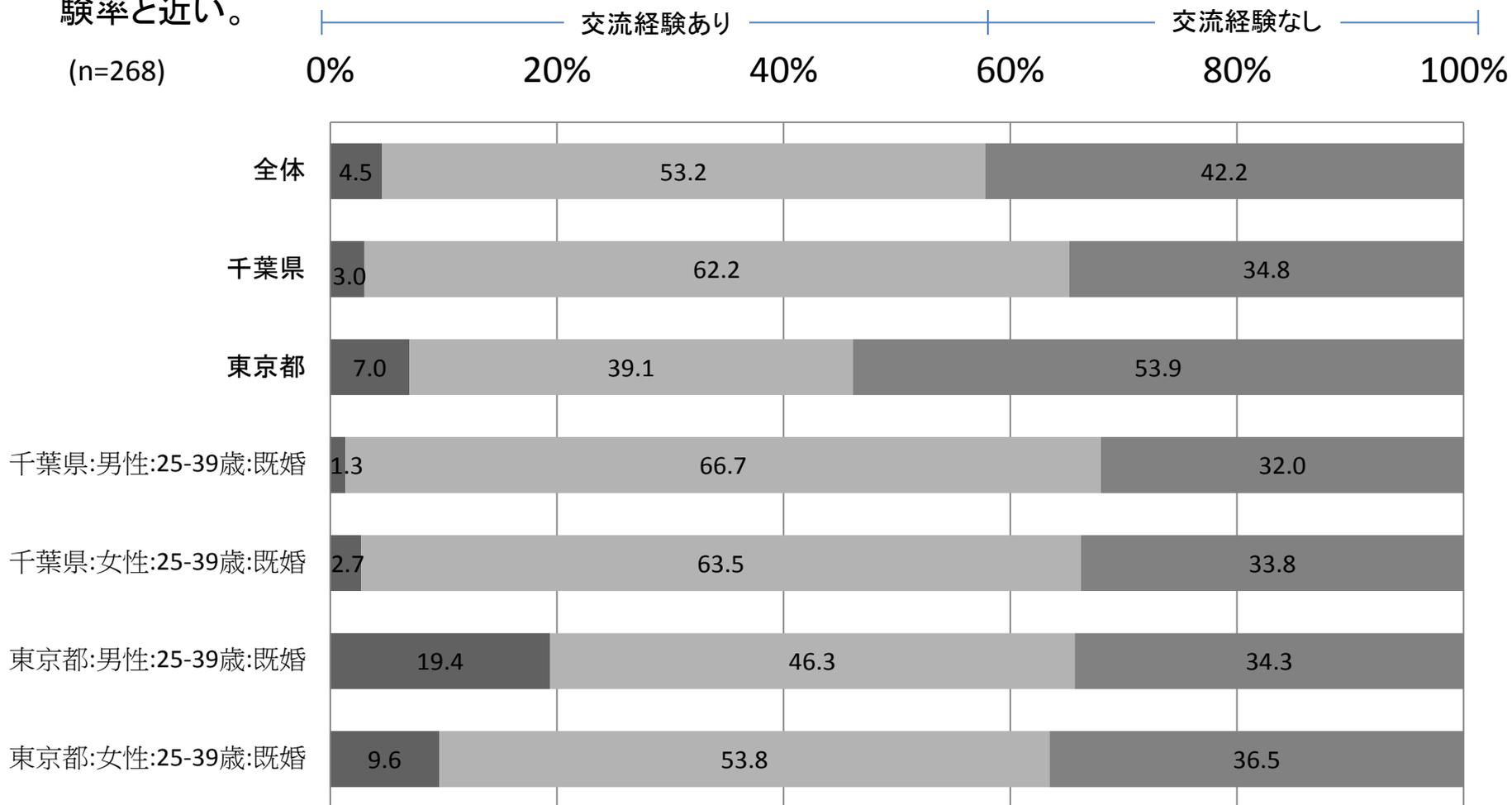
四街道市を知っている人における本市との交流については、行ったこと又は住んだことがある人は、県内の30代、40代で約67%である。それに対し、東京都の20代、30代では50%強であるが、40代は37%と年代が上がるほど交流経験は低くなる傾向にある。



四街道市との交流経験(ターゲット年齢)

四街道市を知っている25歳から39歳の既婚者の交流経験については、千葉県、東京都の男女ともに60%以上の人が行ったこと又は住んだことがあると回答している。

特に、東京居住者で25歳から39歳の既婚者の四街道市との接点は、千葉県居住者の交流経験率と近い。



■ 行ったことがあるし、住んだこともある ■ 行ったことはあるが、住んだことはない ■ 行ったことも、住んだこともない ¹⁸

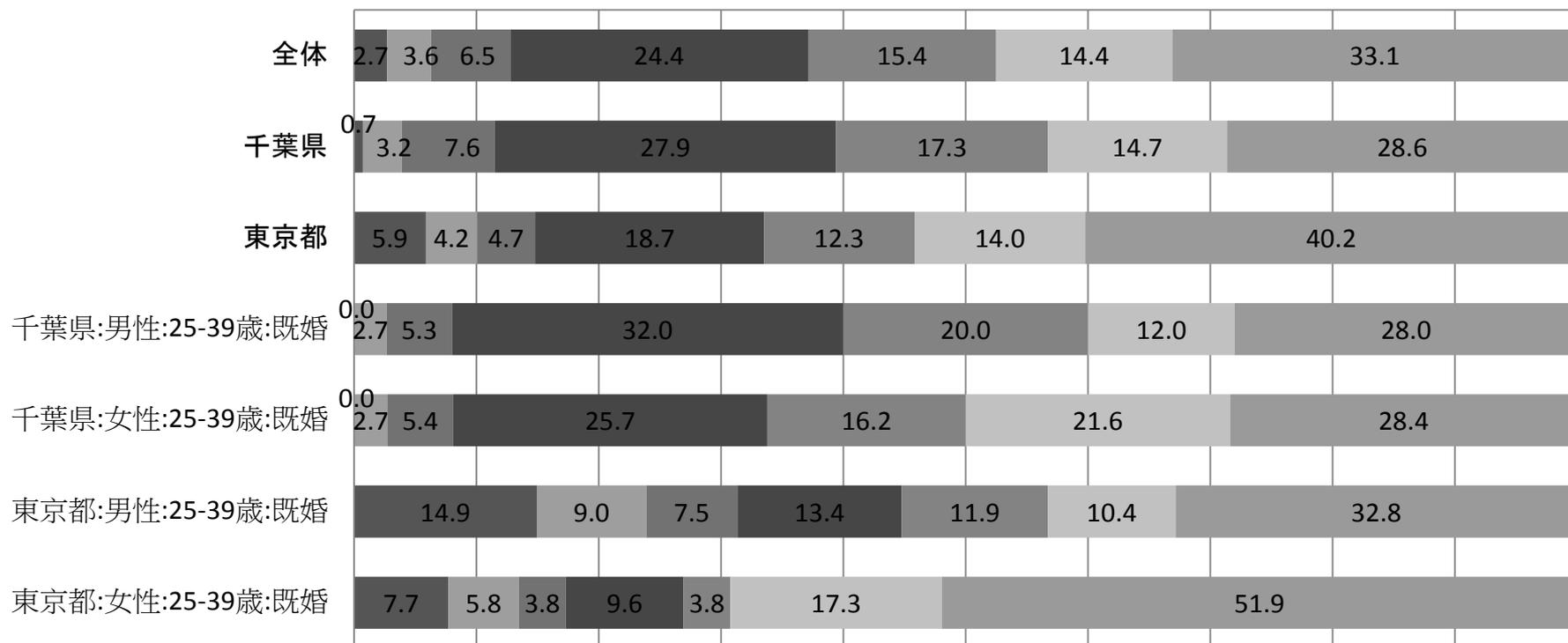
四街道市に対する居住意向(ターゲット年齢)

四街道市への居住意向について、25歳から39歳の既婚者で本市に住んでみたと考えている人(非常に住んでみたい+住んでみたい+やや住んでみたい)は、千葉県のみならず、東京都の男女ともに8%程度であるのに対し、東京都は男性は31%、女性は17%と、東京都民の居住意向が高いという結果となっている。

居住意向あり

(n=268)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



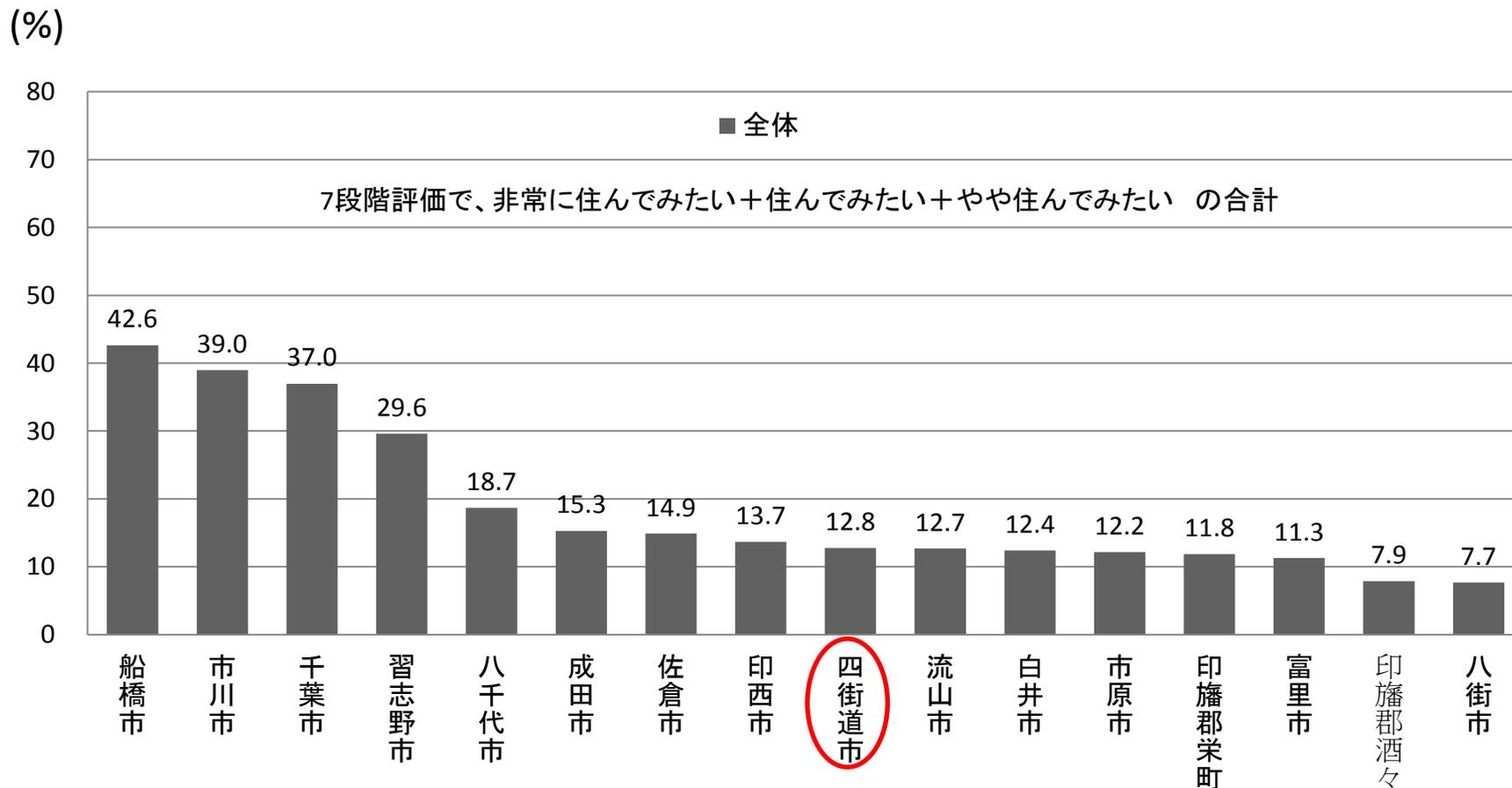
■ 非常に住んでみたい
 ■ どちらともいえない

■ 住んでみたい
 ■ あまり住んでみたいと思わない

■ やや住んでみたい
 ■ 住んでみたいと思わない

居留意向比較(絶対評価、7段階評価中「住んでみたい」合計)

総武線沿線等と印旛管内の市町への居留意向については、総武線沿線で千葉以西の市への居留意向が高く、船橋市(42.6%)、市川市(39.0%)、千葉市(37.0%)、習志野市(29.6%)の4市が突出している。四街道市は、12.8%と、佐倉、印西、流山、白井、市原等近隣各市とほぼ同等の評価となっている。

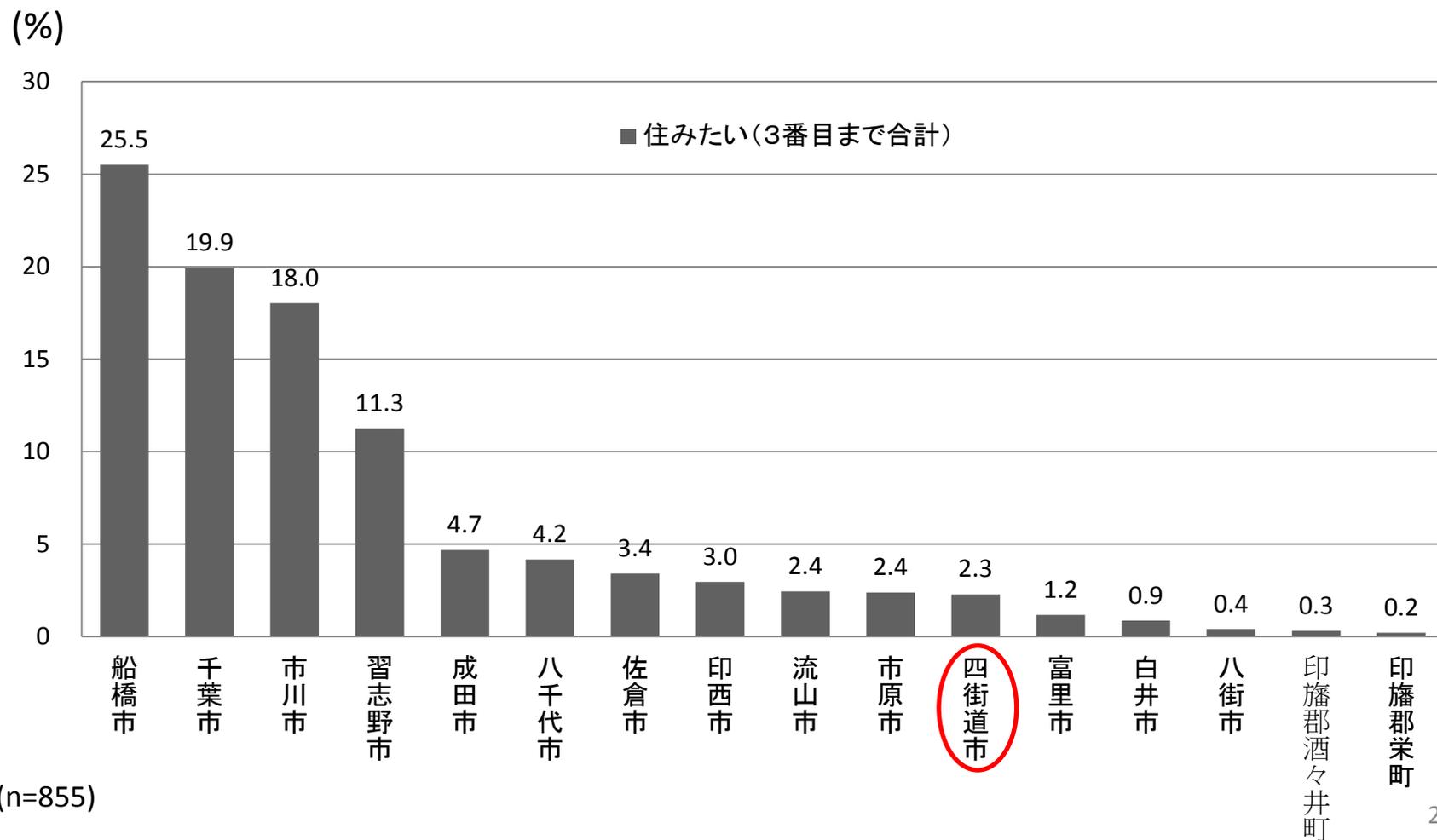


四街道市 n=924

(各市町とも、各市町名の認知者への質問)

居住意向比較(相対評価、3番目まで合計)

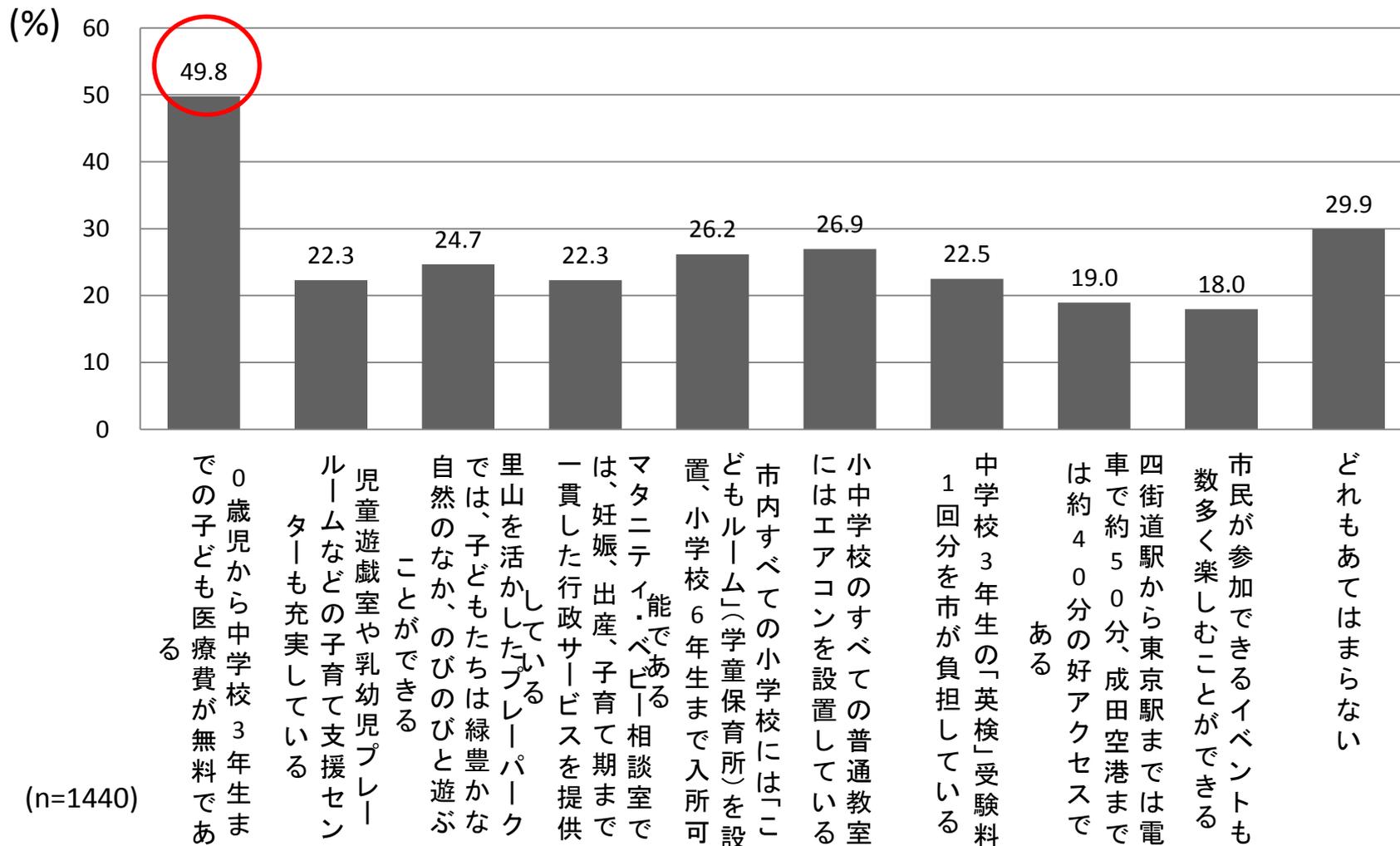
住んでみたい市町を3つ選んでもらったところ、もっとも居住意向が高かったのは船橋市であり、全体の約25%の人が選択した。以降、千葉市、市川市、習志野市と続いている。四街道市は、調査対象内では10番目であり、選択したのは2.3%という結果となった。



四街道市の魅力説明文の評価(全体)

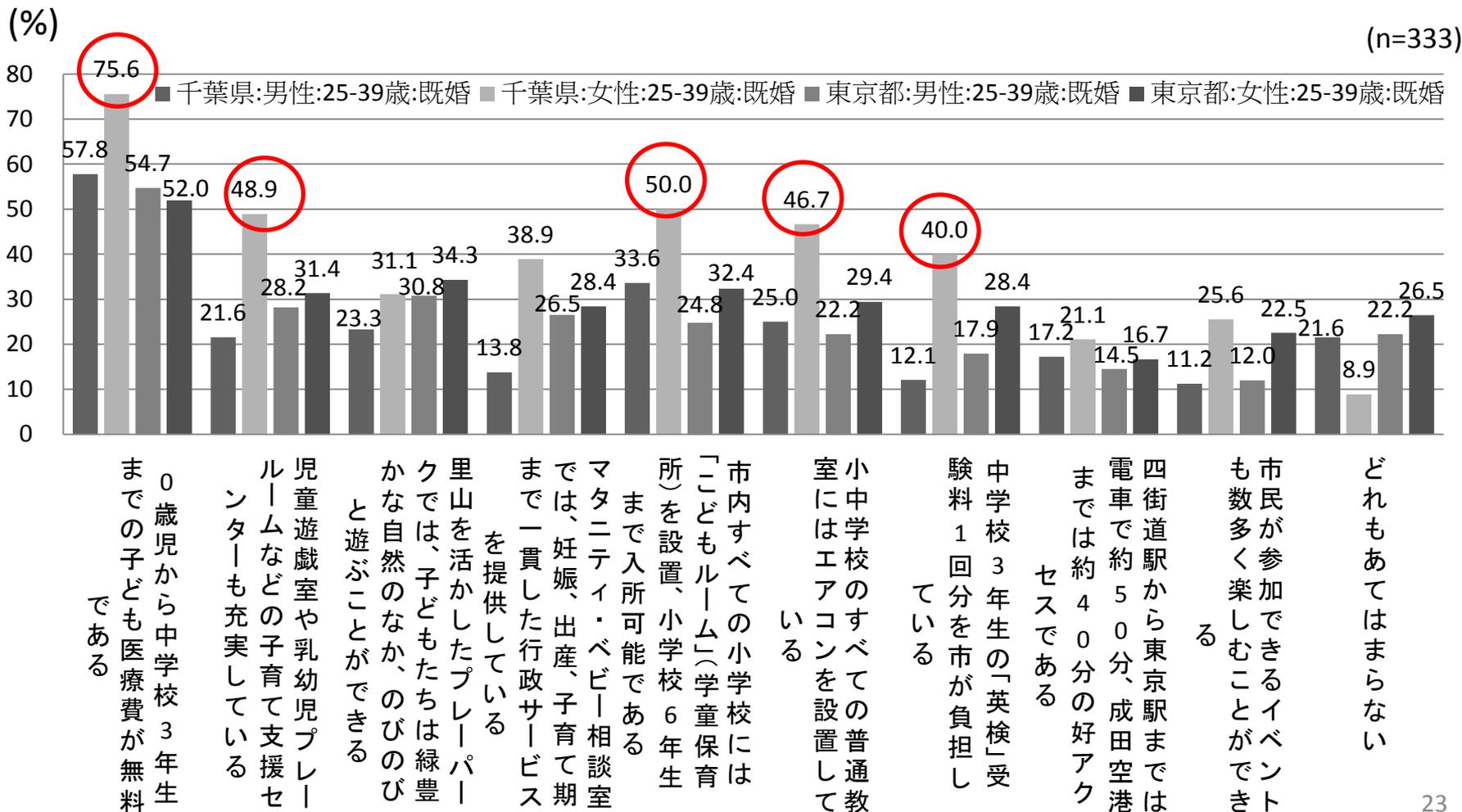
四街道市の説明文を提示し、もっとも魅力に感じられたのは「0歳児から中学校3年生までの子どもの医療費無料」であり、約50%の人が魅力と感じた。

その他の要素については30%未満であり、大きな差はなかった。



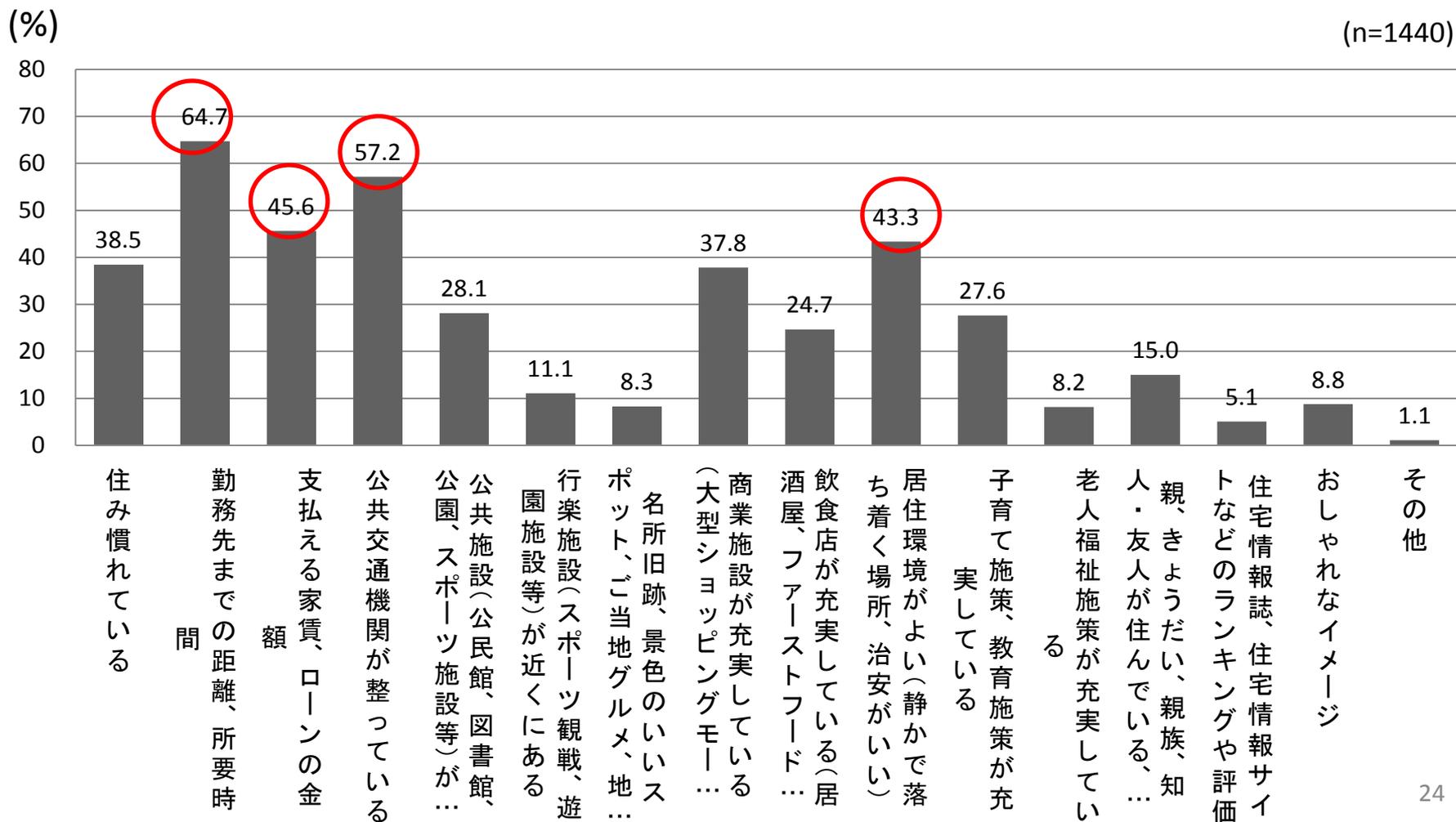
四街道市の魅力説明文の評価(ターゲット年齢)

25歳から39歳の既婚者がもっとも魅力に感じられたのは「0歳児から中学校3年生までの子どもの医療費無料」であり、特に千葉県女性の約76%が魅力だと感じている。千葉県の女性は同様に、「子育て支援センター」、「こどもルーム」、「小中学校のエアコン設置」、「英検受講料1回分の市負担」についても魅力と感じている一方、男性はあまり魅力と感じていない。東京都居住の男女については感じ方にあまり差がない。



居住地選択時の重視点(全体)

「勤務先までの距離、所要時間」が約65%ともっとも高く、次に「公共交通機関の整備状況」、「支払える家賃やローン」、「居住環境」、「商業施設」等の日常生活に関係する実質的な事柄が重視されており、「行楽施設」、「名所旧跡」、「住宅情報誌のランキング」、「おしゃれなイメージ」等付加価値的な事柄は重視されていない傾向にある。

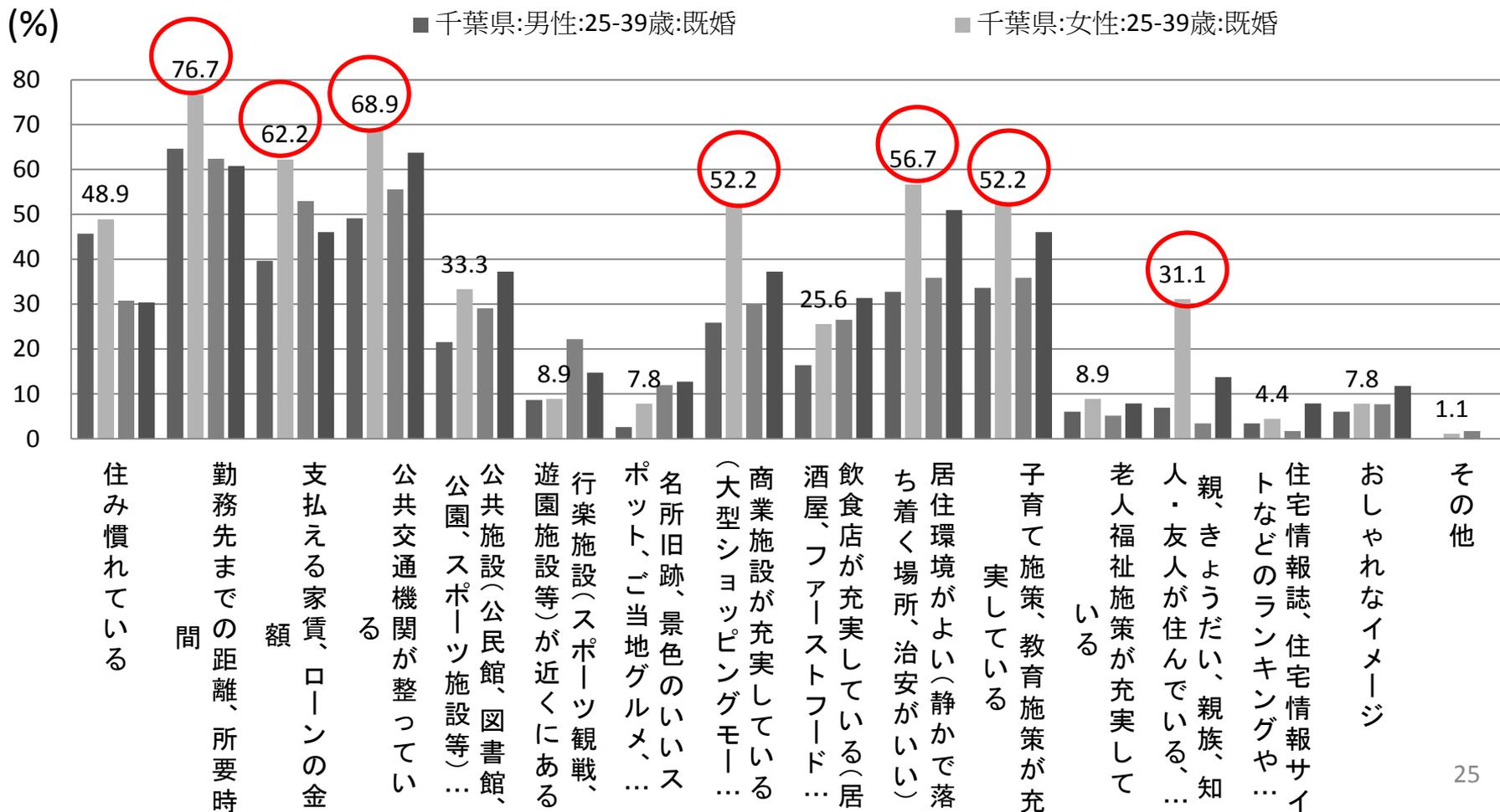


居住地選択時の重視点(ターゲット年齢)

25歳から39歳の既婚者では東京都、千葉県居住者ともに「公共交通機関」、「商業施設」、「居住環境」、「子育て施策」について女性の方が男性よりも重視している。特に都心から距離のある分、千葉県内に住む女性はこういったポイントへの意識が強い傾向にある。

また、「親や兄弟の居住や意見」については、男性はあまり重視しないが、女性は重視する傾向にある。

(n=333)



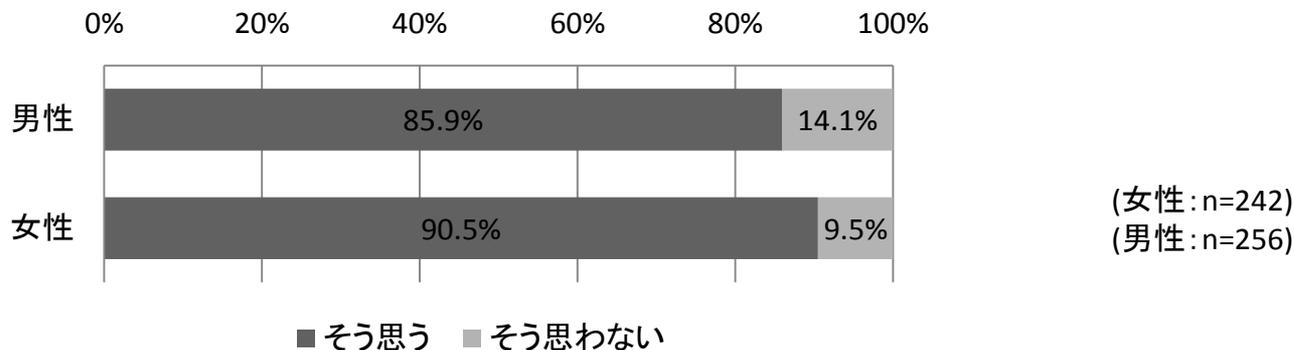
男と女、子育て意識の違い — 子育ては女性中心 or 男性中心？

「子育ては夫婦平等に協力しあうべき」と男性の86%、女性の91%が考えている。

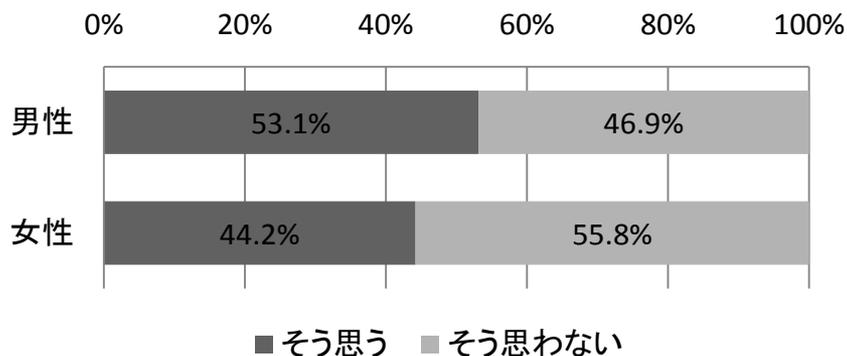
一方で、「子育ては女性中心であるべき」と考える男性は過半数の53%であり、「そう思わない」と反対する女性は56%。

逆に「子育ては男性が中心であるべきだ」と思うかとの問いに対しては、女性の86%が「そう思わない」と考えており、「女性中心」であることには反対しつつも、「男性中心」であることも現実的ではないと考えている様子が伺える。

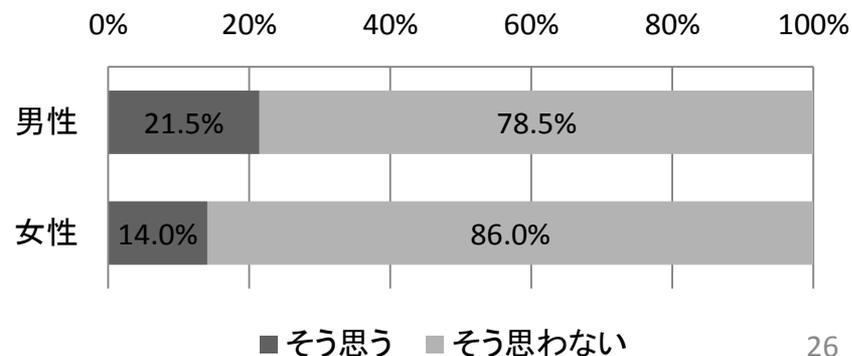
子育ては、夫婦平等に協力しあうべきだと思う



子育ては、女性中心であるべきだと思う



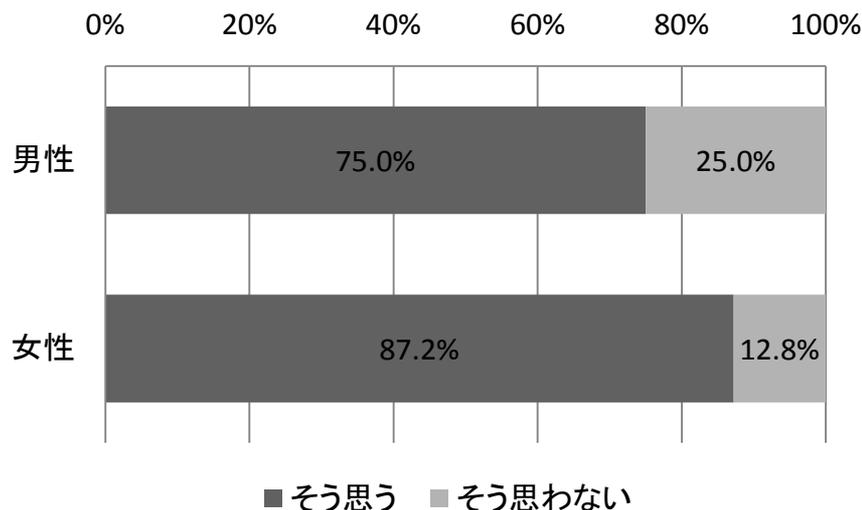
子育ては、男性中心であるべきだと思う



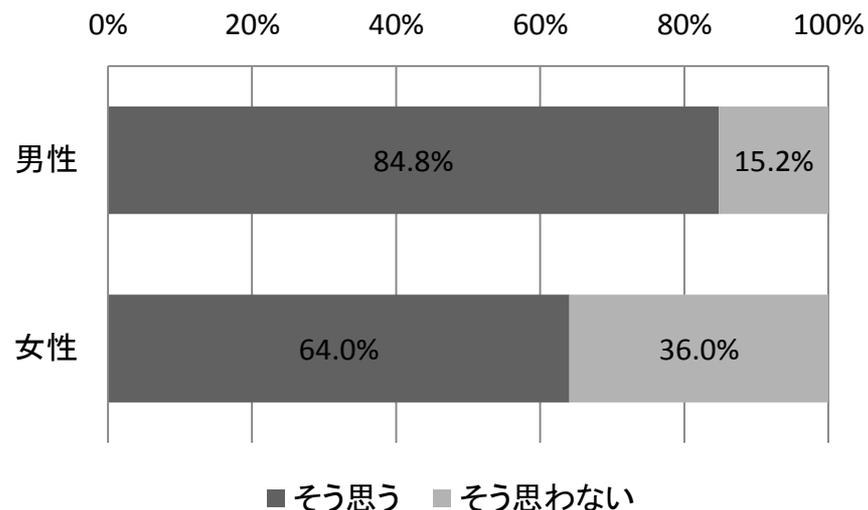
男と女、子育て意識の違い — 自分は子育てに熱心？ 配偶者は？

「自分は、子育てに力を注いでいる(いた)」と男性の75%、女性の87%が考えているが、配偶者が子育てに力を注いでいたかという問いには、男性の85%が「注いでいる(いた)」と回答し、女性の自己評価と近似値であるのに対し、女性からの配偶者評価は64%にとどまっており、男性の自己評価よりも11%も低い。

自分は、子育て、子どもの世話に
力を注いでいる(いた)と思う



配偶者は、子育て、子どもの世話に
力を注いでいる(いた)と思う

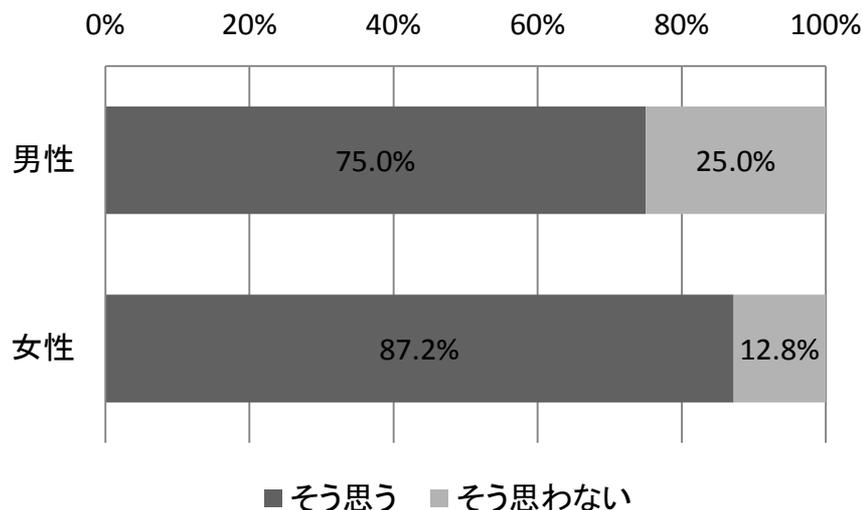


(女性:n=242)
(男性:n=256)

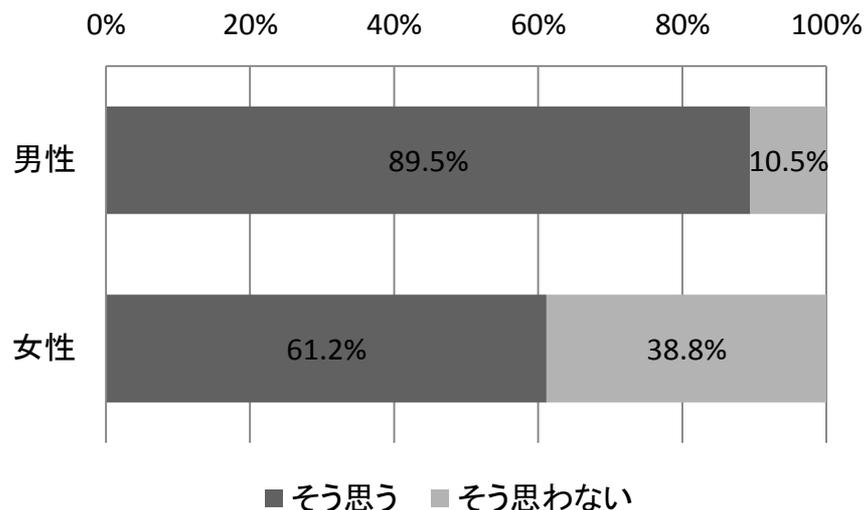
男と女、子育て意識の違い — 自分は子どもの行事に積極的？ 配偶者は？

「自分は、子どもの行事に積極的に関わっている(いた)」と男性の75%、女性の87%が考えているが、「配偶者が積極的に関わっていたと思う」かの問いには、男性の90%が「関わっている(いた)」と回答し、女性の自己評価と近似値であるのに対し、女性からの配偶者評価は61%にとどまっており、男性の自己評価よりも14%も低く、自分自身が考えているほど、女性に評価されていないことが伺える。

自分は、子どもの行事に
積極的に関わっている(いた)と思う



配偶者は、子どもの行事に
積極的に関わっている(いた)と思う



(女性: n=242)
(男性: n=256)